

請願第 26号

平成28年 9月20日

川崎市議会議長 石田康博様

中原区

川崎市教職員組合

ほか 9名

教職員の子どもと向き合う時間を確保するため、学校現場における業務等を改善し、多忙な勤務実態解消と労働条件改善を求める  
請願

#### 請願要旨・理由

学校現場を取り巻く環境が複雑化・多様化し、学校に求められる役割が拡大する中、長時間勤務の改善が課題となっています。その結果、全国で精神疾患による病気休職者は、平成19年度以降5,000人前後と依然として高水準で推移しています。多様な子どもや保護者への対応、授業時数や事務量の増加、休憩時間も休暇も取れない実態から無理を重ね働き続けることで、体調を崩し、余儀なく退職する者も少なくありません。このような現状の中、文部科学省では、昨年11月に設置した「次世代の学校指導体制強化のためのタスクフォース」において、定数等の在り方などの検討を行ってきました。本年7月の最終まとめにおいて、いじめや不登校など児童生徒を取り巻く諸課題の複雑化・多様化、特別支援教育の対象となる子どもの増加などの対応のため、専門性の高い教員や少人数指導を実施するために必要な定数を確保し、学校指導体制の改善・充実を図るとしています。国が動き出した今、本市においても教職員の子どもと向き合う時間を確保するため、学校現場における業務等を改善し、多忙な勤務実態解消と労働条件改善に向け、条件整備に取り組むことが重要です。

本市では、労働安全衛生法に基づいた勤務時間記録簿記入の取組が実施され

ていますが、記入においては法の趣旨を理解し、より正確な勤務時間や業務内容の把握を行い、職務負担の軽減など実効ある多忙化解消・メンタルヘルス対策やケア体制を確立していくことが大切です。そして、学校を取り巻く多様な課題に対応するため、教職員定数の改善や学校現場を支援するための非常勤講師やサポーター、専門スタッフの配置とその予算の確保も必要であると考えます。また、とりわけ、県費負担教職員に関する権限の政令市移管に関わり、教育水準を下げない観点からも、学級編成標準の見直しについても重要であると考えます。

以上の趣旨・理由に基づき、以下の内容をお願いいたします。

教職員が子どもと向き合う時間を確保するため、学校現場における業務等を改善し、多忙な勤務実態の解消と労働条件の改善のため、市に対して、以下の事項について要望します。

- 1 教職員の業務の精選、全市的行事や本務外業務の見直しを行い、多忙化解消に関わる具体的な手だてを講じること。
- 2 「勤務時間記録簿」を通して教員の勤務実態を明らかにし、労働条件の改善につなげること。また、メンタルヘルス対策やケア体制、両立支援・復職支援体制などの条件整備を進めること。
- 3 県費負担教職員に関する権限の政令市移管による学級編成標準の見直し、学校現場を支援するための非常勤講師やサポーター、専門スタッフの配置のための予算、また、豊かな教育環境を整備するための予算を確保・拡充すること。

紹介議員

青	木	功	雄
花	輪	孝	一
山	田	益	男
佐	野	仁	昭
小	田	理恵子	
添	田		勝
月	本	琢	也
重	富	達	也